

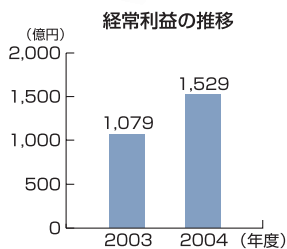
2005環境アクションレポート ハイライト

Economy 経済

経常利益が41.7%増



2004年度は、料金の値下げを実施しましたが、経営効率化の進展や、猛暑による夏季需要の増大もあり、経常利益は昨年度より41.7%増の1,529億円となりました。



新たな中期経営方針および経営目標の策定

従来の中期経営方針(2002~2006年度)における経営目標達成の見通しがつきつつあること、2005年4月から電力自由化範囲が拡大したことなどを受け、新たな中期経営方針および経営目標を策定しました。



Environment 環境

環境活動コストの将来計画策定

2004年度から、当社経営資源の最適配分のため、環境会計を活用し全社の環境活動コスト配分に係る将来計画を策定しました。



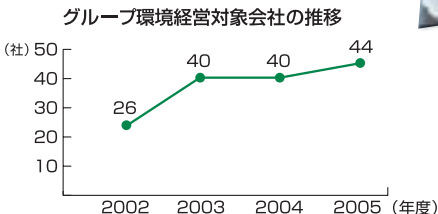
温暖化問題への取り組みの充実

2010年度に向けた自社CO₂排出原単位抑制目標の設定、CO₂以外の温室効果ガス(5ガス)の排出量の試算・公表などを行いました。



九電グループで環境経営を推進

2005年度は対象を40社から44社に拡大し、グループを挙げ環境経営に取り組んでいます。



企業の社会的責任(CSR)への取り組み

2005年3月に策定した「中期経営方針(2005~2009年度)」において、「CSRへの取り組み」を経営方針上の主な取り組み項目の一つとして位置付け、これまで以上に企業としての社会的責任を果たしていく姿勢を明確にしました。



また、九州電力及び九電グループに係る企業活動の具体的規範として「九州電力グループ行動憲章」を制定しました。

プルサーマル計画の推進と新規原子力の開発

将来のプルサーマルの実施を目指し、佐賀県玄海町においてプルサーマル公開討論会を開催しました。また、次期原子力の開発を目指し、川内原子力発電所地点において環境影響評価を行う「方法書」の作成に着手しました。



川内原子力発電所

「エコリーフ」環境ラベル認証を取得



2004年7月、ライフサイクルアセスメント手法に基づき、製品のライフサイクル環境負荷データ(CO₂排出量など)を第三者機関が認証する「エコリーフ」環境ラベルの認証を取得しました。



「エコリーフ」環境ラベル登録証

はっちょうばる 八丁原バイナリー発電施設が初のRPS法認定

2005年2月、八丁原バイナリー発電施設が、地熱利用発電設備としては全国で初のRPS法対象発電設備として認定を受けました。



八丁原バイナリー発電施設

Society 社会



記載内容に関する詳細な情報を「巻末CD-ROM」で紹介しているもの

CD 1

福岡県西方沖地震時の原子力発電所の状況

2005年3月20日に福岡県西方沖で大型の地震(マグニチュード7.0)が発生し、その後も余震が続いていますが、玄海原子力発電所、川内原子力発電所ともに安全に運転を継続しています。



CD 20

女子畑発電所ダム周辺で環境教育を支援

学校教育等における環境教育の支援活動として、女子畑発電所ダム周辺の女子畑いこいの森で自然観察会や森林教室を実施しました。



自然観察会



P44
参照



CD 14

九州ふるさとの森づくりを展開中

2001年度から10年間で100万本の植樹をする「九州ふるさとの森づくり」を九州各地で展開しており、4年間で約44万本を植樹しました。

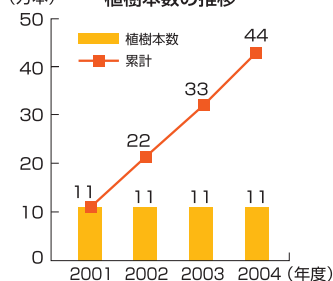


P44
参照



CD 13

植樹本数の推移



雲仙・普賢の森植樹ボランティア



エコ・マザー活動を展開中

エコ・マザーを通じた環境広報を展開しており、2004年度は幼稚園・保育園・子供会で、141回の環境紙芝居の読み聞かせを実施しました。

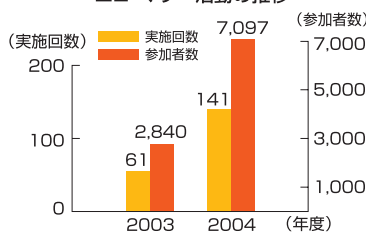


P43-68
参照



CD 12

エコ・マザー活動の推移



紙芝居の後、手づくりの教材で、家庭でできる取り組みを紹介

社有林で「FSC森林管理認証」を取得

2005年3月、社有林において、適切な森林管理が行われていることを認証するFSC (Forest Stewardship Council: 森林管理協会) の「森林管理認証」を取得しました。



P45
参照



「森林認証」認証登録証

循環型社会形成への取り組みを推進

廃棄物の最終処分量を限りなくゼロに近づける「ゼロミッション」に挑戦しています。

産業廃棄物リサイクル率は92%、古紙リサイクル率は100%となりました。

2005年度からは、新たに年間の産業廃棄物社外埋立処分量を1,000トン以下に抑制するよう目標管理をしていきます。



P34-36
参照



CD 8